

# 事業報告書

令和3(2021)年度  
(第6期事業年度)

自 令和3(2021)年4月1日  
至 令和4(2022)年3月31日

地方独立行政法人栃木県立がんセンター

## 目 次

### I 法人の概要

|    |                    |    |
|----|--------------------|----|
| 1  | 目的                 | 1  |
| 2  | 業務内容               | 1  |
| 3  | 沿革                 | 1  |
| 4  | 設立根拠法              | 1  |
| 5  | 設立団体の長             | 1  |
| 6  | 組織図                | 2  |
| 7  | 事務所の所在地            | 2  |
| 8  | 資本金の額及び出資者ごとの出資額   | 3  |
| 9  | 役員                 | 3  |
| 10 | 職員の状況              | 4  |
|    | (1) 常勤職員の数         | 4  |
|    | (2) 非常勤職員の数        | 4  |
| 11 | 法人が設置・運営する病院の概要    | 5  |
| 12 | 財務諸表の要約            | 6  |
|    | (1) 貸借対照表          | 6  |
|    | (2) 損益計算書          | 7  |
|    | (3) キャッシュ・フロー計算書   | 8  |
|    | (4) 行政サービス実施コスト計算書 | 8  |
| 13 | 財務情報               | 9  |
|    | (1) 財務諸表の概要        | 9  |
|    | (2) 重要な施設等の整備等の状況  | 11 |
|    | (3) 予算及び決算の概要      | 11 |
| 14 | 事業に関する説明           | 12 |
|    | (1) 財源の内訳          | 12 |
|    | (2) 費用の概要          | 12 |

### II 令和3(2021)年度における事業報告

|   |                                   |    |
|---|-----------------------------------|----|
| 1 | 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項 | 13 |
|   | (1) 質の高い医療の提供                     | 13 |
|   | (2) 安全で安心な医療の提供                   | 14 |
|   | (3) 患者・県民の視点に立った医療の提供             | 14 |

|                             |           |
|-----------------------------|-----------|
| (4) 人材の確保と育成                | 15        |
| (5) 地域連携の推進                 | 16        |
| (6) 地域医療への貢献                | 16        |
| (7) 災害等への対応                 | 17        |
| <b>2 業務運営の改善及び効率化に関する事項</b> | <b>17</b> |
| (1) 業務運営体制の確立               | 17        |
| (2) 収入の確保及び費用の削減への取組        | 18        |
| <b>3 財務内容の改善に関する事項</b>      | <b>19</b> |
| <b>4 その他業務運営に関する重要事項</b>    | <b>19</b> |

## I 法人の概要

### 1 目的

栃木県のがん医療政策として求められる高度専門医療を提供するとともに、医療に関する調査及び研究を行い、県内における医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする。

### 2 業務内容

- (1) 医療を提供すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 医療に関する技術者の研修を行うこと。
- (4) 上記に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

### 3 沿革

平成 28（2016）年 4 月 1 日 地方独立行政法人として設立

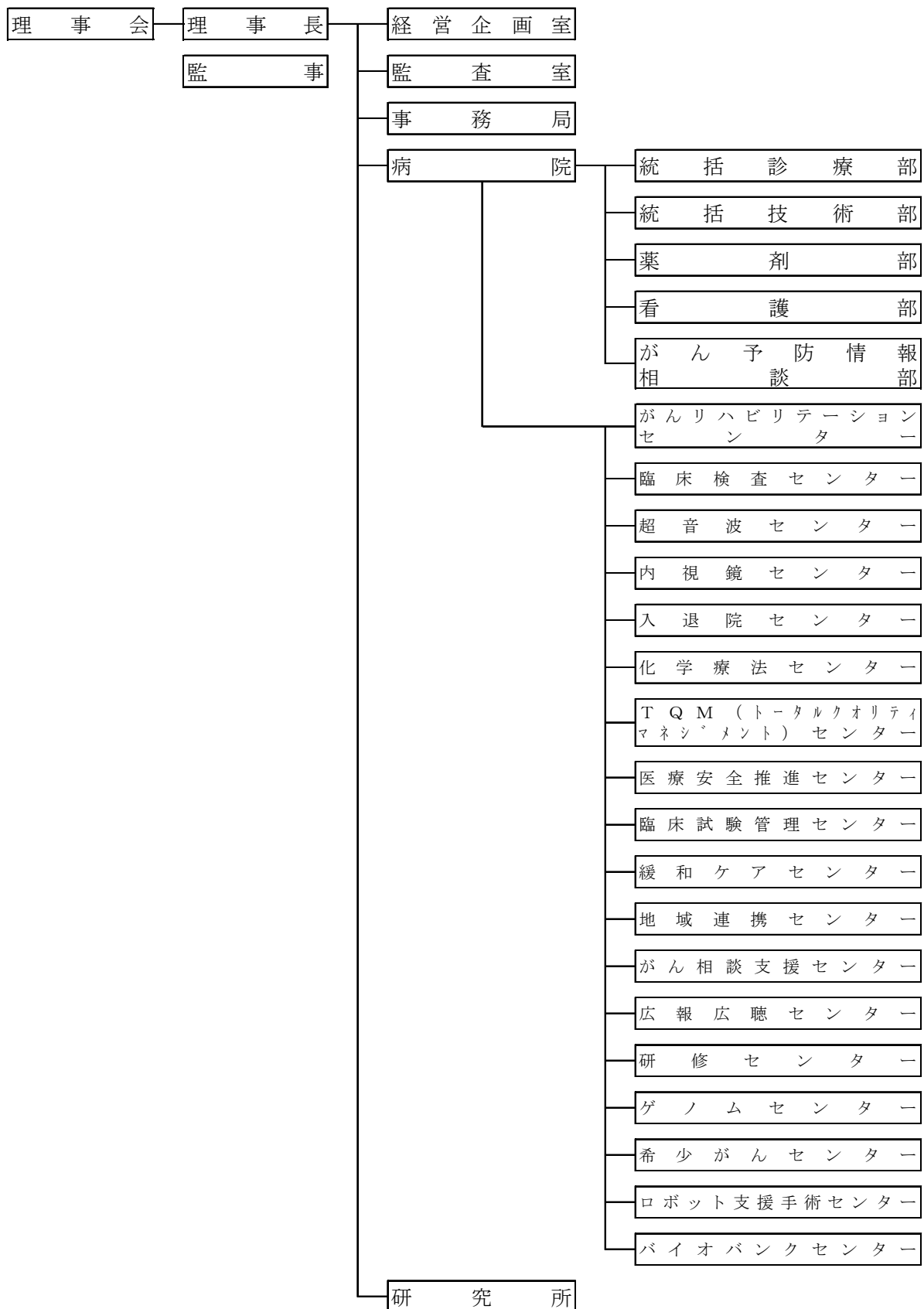
### 4 設立根拠法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）

### 5 設立団体の長

栃木県知事

6 組織図（令和3（2021）年4月1日現在）



7 事務所の所在地

栃木県宇都宮市陽南4丁目9番13号

## 8 資本金の額及び出資者ごとの出資額

(単位：百万円)

| 区 分     | 期首残高     | 当期増減 | 期末残高     |
|---------|----------|------|----------|
| 設立団体出資金 | 1, 9 9 2 | 0    | 1, 9 9 2 |

## 9 役員（令和3（2021）年4月1日現在）

| 役 職   | 区 分 | 氏 名   | 経 歴  |
|-------|-----|-------|--|
| 理 事 長 | 常 勤 | 菱沼 正一 | 平成 28（2016）年 4 月 栃木県立がんセンター<br>副理事長（病院長兼務）<br>平成 30（2018）年 4 月 現職（センター長兼務） |
| 副理事長  | 常 勤 | 尾澤 巖  | 平成 28（2016）年 4 月 栃木県立がんセンター<br>理事（副病院長兼務）<br>平成 30（2018）年 4 月 現職（病院長兼務）    |
| 副理事長  | 常 勤 | 五月女智史 | 令和 2（2020）年 4 月 現職（事務局長兼務）   |
| 理 事   | 常 勤 | 片野 進  | 平成 26（2014）年 4 月 栃木県立がんセンター<br>副病院長<br>平成 28（2016）年 4 月 現職（副病院長兼務）         |
| 理 事   | 常 勤 | 藤田 伸  | 平成 28（2016）年 4 月 栃木県立がんセンター<br>統括診療部長<br>平成 30（2018）年 4 月 現職（副病院長兼務）       |
| 理 事   | 非常勤 | 若尾 文彦 | 平成 24（2012）年 3 月<br>国立がん研究センターがん対策情報センター<br>センター長<br>平成 28（2016）年 4 月 現職   |
| 理 事   | 非常勤 | 野間 重孝 | 令和 2（2020）年 4 月<br>済生会宇都宮病院 院長<br>令和 2（2020）年 4 月 現職                       |
| 監 事   | 非常勤 | 薄井 里奈 | 令和 2（2020）年 8 月<br>浅野正富法律事務所 弁護士<br>平成 30（2018）年 4 月 現職                    |
| 監 事   | 非常勤 | 佐藤千鶴子 | 昭和 57（1982）年 3 月<br>佐藤千鶴子公認会計士事務所 所長<br>平成 28（2016）年 4 月 現職                |

## 10 職員の状況

### (1) 常勤職員の数

| 職種             | 令和3(2021)年度          |                      | 令和4(2022)年度          |
|----------------|----------------------|----------------------|----------------------|
|                | 令和3(2021)年<br>4月1日現在 | 令和4(2022)年<br>3月1日現在 | 令和4(2022)年<br>4月1日現在 |
| 医師             | 58                   | 59                   | 60                   |
| 歯科医師           | 2                    | 2                    | 2                    |
| レジデント・シニアレジデント | 0                    | 0                    | 0                    |
| 看護師            | 231                  | 228                  | 234                  |
| 臨床検査技師         | 26                   | 27                   | 27                   |
| 診療放射線技師        | 18                   | 18                   | 18                   |
| 薬剤師            | 16                   | 16                   | 15                   |
| 管理栄養士          | 4                    | 4                    | 4                    |
| 保健師            | 5                    | 5                    | 5                    |
| 理学療法士          | 4                    | 4                    | 4                    |
| 作業療法士          | 1                    | 1                    | 0                    |
| 歯科衛生士          | 1                    | 2                    | 2                    |
| 臨床工学技士         | 1                    | 2                    | 2                    |
| 医療映像職          | 1                    | 1                    | 1                    |
| 臨床心理士          | 1                    | 1                    | 1                    |
| 医療ソーシャルワーカー    | 2                    | 1                    | 2                    |
| 遺伝カウンセラー       | 0                    | 0                    | 0                    |
| 事務             | 31                   | 32                   | 32                   |
| 特定業務職員         | 27                   | 28                   | 30                   |
| 研究職            | 0                    | 1                    | 3                    |
| 合計             | 429                  | 432                  | 442                  |

### (2) 非常勤職員の数

令和3(2021)年4月1日現在において36人(令和4(2022)年4月1日現在において47人)となっている。

11 法人が設置・運営する病院の概要(令和3(2021)年4月1日現在)

|                 |  |
|-----------------|--|
| 病 院 名           | 栃木県立がんセンター   |
| 所 在 地           | 栃木県宇都宮市陽南4丁目9番13号  |
| 診 療 科 目         | 内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、内分泌内科、精神腫瘍科、内視鏡内科、緩和ケア科、ペインクリニック内科、腫瘍内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、乳腺外科、骨軟部腫瘍・整形外科、形成外科、内視鏡外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、臨床検査科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科（計31科） |
| 病 床 数           | 一般病床 291 床（うち緩和ケア病棟 24 床）  |
| 入院基本料<br>(施設基準) | 一般病床 専門病院入院基本料（7対1入院基本料）<br>緩和ケア病棟 緩和ケア病棟入院料   |



## 12 財務諸表の要約

### (1) 貸借対照表

(単位：百万円)

| 資産の部     | 金額     | 負債の部               | 金額     |
|----------|--------|--------------------|--------|
| 固定資産     | 9,775  | 固定負債               | 8,939  |
| 有形固定資産   | 9,277  | 長期借入金              | 2,530  |
| 無形固定資産   | 0      | 移行前地方債償還債務         | 3,006  |
| 投資その他の資産 | 498    | 資産見返負債             | 1,234  |
| 流動資産     | 5,977  | 引当金                | 2,168  |
| 現金及び預金   | 4,339  | 流動負債               | 3,266  |
| 医業未収金    | 1,201  | 預り補助金等             | 16     |
| 未収金      | 260    | 寄附金債務              | 0      |
| 貸倒引当金    | △5     | 1年以内返済予定長期借入金      | 392    |
| たな卸資産    | 171    | 1年以内返済予定移行前地方債償還債務 | 477    |
| その他流動資産  | 12     | 未払費用               | 0      |
|          |        | 未払金                | 2,081  |
|          |        | 未払消費税及び地方消費税       | 1      |
|          |        | 前受金                | 0      |
|          |        | 預り金                | 27     |
|          |        | 引当金                | 271    |
|          |        | 負債合計               | 12,205 |
|          |        | 純資産の部              |        |
|          |        | 資本金                | 1,992  |
|          |        | 資本剰余金              | 66     |
|          |        | 利益剰余金              | 1,490  |
|          |        | 純資産合計              | 3,548  |
| 資産合計     | 15,753 | 負債純資産合計            | 15,753 |

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

## (2) 損益計算書

(単位：百万円)

| 科目             | 金額     |
|----------------|--------|
| 営業収益           | 11,660 |
| 医業収益           | 7,850  |
| 運営費負担金収益       | 1,344  |
| 補助金等収益         | 1,815  |
| 資産見返負債戻入       | 624    |
| 受託事業等収益        | 10     |
| その他営業収益        | 18     |
| 営業費用           | 9,808  |
| 医業費用           | 9,183  |
| 一般管理費          | 132    |
| その他営業費用        | 0      |
| 控除対象外消費税損失     | 460    |
| 資産取得控除対象外消費税償却 | 34     |
| 営業外収益          | 95     |
| 運営費負担金収益       | 49     |
| 補助金等収益         | 3      |
| 寄付金収益          | 0      |
| その他営業外収益       | 42     |
| 営業外費用          | 76     |
| 財務費用           | 75     |
| 雑損失            | 2      |
| 臨時利益           | 3      |
| 臨時損失           | 4      |
| 当期純利益          | 1,870  |

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

## (3) キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科目                        | 金額     |
|---------------------------|--------|
| I 業務活動によるキャッシュ・フロー(A)     | 1,757  |
| 医療材料の購入による支出              | △3,451 |
| 人件費支出                     | △3,707 |
| その他業務支出                   | △1,950 |
| 医業収入                      | 7,906  |
| 運営費負担金収入                  | 1,394  |
| 補助金等収入                    | 1,617  |
| 補助金等の精算による返還金の支出          | △38    |
| 寄附金収入                     | 0      |
| その他業務収入                   | 60     |
| 利息受取                      | 0      |
| 利息支払                      | △75    |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー(B)    | 145    |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー(C)   | 448    |
| IV 資金の増加額(又は減少額)(D=A+B+C) | 2,349  |
| V 資金の期首残高(E)              | 1,989  |
| VI 資金の期末残高(F=D+E)         | 4,339  |

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがある。

## (4) 行政サービス実施コスト計算書

(単位:百万円)

| 科目                      | 金額              |
|-------------------------|-----------------|
| I 業務費用                  | 1,958           |
| 損益計算書上の費用<br>(控除) 自己収入等 | 9,888<br>△7,930 |
| II 引当外退職給付増加見積額         | 7               |
| III 機会費用                | 4               |
| IV 行政サービス実施コスト          | 1,970           |

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがある。

## 13 財務情報

### (1) 財務諸表の概要

経常収益、経常費用、当期総損益、資産、負債、キャッシュ・フローなどの主要な財務データの状況（増減の主な要因）

#### （経常収益）

令和3（2021）年度の経常収益は11,755百万円となり、前年度と比較して1,855百万円増（18.7%増）となっている。これは、前年度と比較して医業収益が230百万円増（3.0%増）、営業収益全体で1,860百万円増（19.0%増）となったことが主な要因となっている。

#### （経常費用）

令和3（2021）年度の経常費用は9,885百万円となり、前年度と比較して98百万円増（1.0%増）となっている。これは、前年度と比較して医業費用が104百万円増（1.1%増）となったことが主な要因となっている。

#### （当期総損益）

令和3（2021）年度の当期総利益は1,870百万円となり、前年度と比較して1,757百万円増となっている。これは、前年度と比較して医業収益が230百万円増（3.0%増）、営業収益で1,860百万円増（19.0%増）、医業費用が104百万円増（1.1%増）、営業費用で108百万円増（1.1%増）となったことが主な要因となっている。

#### （資産）

令和3（2021）年度末現在の資産合計は15,753百万円と、前年度と比較して3,408百万円増（27.6%増）となっている。これは、前年度と比較して現金及び預金の増、未収金（補助金）の増に伴い流動資産が2,578百万円増（75.8%増）となったことが主な要因となっている。

#### （負債）

令和3（2021）年度末現在の負債合計は12,205百万円と、前年度と比較して1,527百万円増（14.3%増）となっている。これは、前年度と比較して長期借入金が1,168百万円増（85.7%増）となったことが主な要因となっている。

#### （業務活動によるキャッシュ・フロー）

令和3（2021）年度の業務活動によるキャッシュ・フローは1,757百万円の収入となり、前年度と比較して1,322百万円の収入増（304.1%増）となっている。これは、前年度と比較して医業収入が329百万円増（4.3%増）、補助金等収入が1,210百万円増（297.5%増）となったことが主な要因となっている。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

令和3(2021)年度の投資活動によるキャッシュ・フローは145百万円の収入となり、前年度と比較して277百万円の収入減(65.6%減)となっている。これは、前年度と比較して補助金等収入が193百万円減(97.8%減)となったことが主な要因となっている。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

令和3(2021)年度の財務活動によるキャッシュ・フローは448百万円の収入となり、前年度と比較して1,184百万円の支出増(160.8%増)となっている。これは、前年度と比較して長期借入金による収入が1,094百万円増(234.8%増)となったことが主な要因となっている。

(参考) 主要な財務データの経年比較

(単位：百万円)

| 区分                    | 平成30(2018)<br>年度 | 令和元(2019)<br>年度 | 令和2(2020)<br>年度 | 令和3(2021)<br>年度 |
|-----------------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 経常収益                  | 9,642            | 9,783           | 9,900           | 11,755          |
| 経常費用                  | 9,836            | 10,090          | 9,787           | 9,885           |
| 当期純利益〔又は<br>(△)損失〕    | △190             | △306            | 113             | 1,870           |
| 資産                    | 12,735           | 12,255          | 12,344          | 15,753          |
| 負債                    | 10,898           | 10,713          | 10,678          | 12,205          |
| 利益剰余金〔又は<br>(△)繰越欠損金〕 | △187             | △493            | △380            | 1,490           |
| 業務活動によるキ<br>ャッシュ・フロー  | 523              | 382             | 435             | 1,757           |
| 投資活動によるキ<br>ャッシュ・フロー  | 254              | 102             | 422             | 145             |
| 財務活動によるキ<br>ャッシュ・フロー  | △757             | △521            | △736            | 448             |
| 資金期末残高                | 1,907            | 1,869           | 1,989           | 4,339           |

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(2) 重要な施設等の整備等の状況

- ア 当事業年度中に建替整備が完了した主要施設等  
なし
- イ 当事業年度において建替中の主要施設等の新設・拡充  
なし
- ウ 当事業年度中に処分した主要施設等  
なし

(3) 予算及び決算の概要

(単位：百万円)

| 区分      | 令和3(2021)年度 |        |
|---------|-------------|--------|
|         | 予算          | 決算     |
| 収入      |             |        |
| 営業収益    | 9,844       | 11,056 |
| 医業収益    | 8,478       | 7,867  |
| 運営費負担金  | 1,341       | 1,344  |
| その他営業収益 | 26          | 1,845  |
| 営業外収益   | 131         | 98     |
| 臨時利益    | 0           | 3      |
| 資本収入    | 2,192       | 2,167  |
| 計       | 12,167      | 13,325 |
| 支出      |             |        |
| 営業費用    | 9,325       | 8,665  |
| 医業費用    | 9,158       | 8,529  |
| 一般管理費   | 150         | 123    |
| その他営業費用 | 18          | 13     |
| 営業外費用   | 89          | 76     |
| 臨時損失    | 0           | 0      |
| 資本支出    | 2,661       | 2,637  |
| 計       | 12,075      | 11,378 |

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

## 14 事業に関する説明

### (1) 財源の内訳

当センターの経常収益は11,755百万円で、その内訳は、医業収益7,850百万円(収入の66.8%)、運営費負担金収益1,394百万円(収入の11.9%)、補助金等収益1,818百万円(収入の15.5%)、資産見返負債戻入624百万円(収入の5.3%)となっている。

### (2) 費用の概要

当センターの経常費用は9,885百万円で、その概要は、給与費3,752百万円(費用の38.0%)、材料費3,069百万円(費用の31.1%)、経費1,787百万円(費用の18.1%)、研究研修費40百万円(費用の0.4%)、減価償却費666百万円(費用の6.7%)となっている。

## Ⅱ 令和3（2021）年度における事業報告

### 1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項

#### (1) 質の高い医療の提供

##### ア 高度で専門的な医療の推進

- ・ 肝胆膵外科の高難度手術は、年間目標を下回ったものの、51件実施
- ・ 希少がんに関する正しい知識の普及と啓発を目的に、市民公開講座を開催
  - ※ 希少がん問合せ10件、希少がんボードカンファレンス4件開催
- ・ バイオバンク参加診療科は、設立当時の2診療科から年度末には8診療科になり、患者同意説明の体制も確立
  - ※ 集積数3,996件、払出し数128件
- ・ がん予防遺伝カウンセリング外来に初診51家系75名、再診94家系133名が受診
- ・ がんゲノムプロファイリング検査を合計52件実施し、治験参加のため国立がん研究センターへ4名の受診予約
- ・ リンパ浮腫療法士による専門的なケアなど、患者のQOLを向上するための支持療法を提供
  - ※ リンパ浮腫ケア外来施術件数880件／年、心理的負担軽減のための個別介入64件／年
- ・ 標準治療法確立のための多施設共同研究に、臨床研究コーディネーターが積極的に参画
- ・ 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」について、標準業務手順書を改正し、研究実施体制を整備

##### イ チーム医療の推進

- ・ チームSTEPPS研修は、昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、医療安全推進目標にチームSTEPPSを活用し、年間通して各部署で具体的な目標立案と実践

##### ウ 緩和ケアの推進

- ・ 緩和ケアセンターの体制強化を図るため、毎週水曜日に多職種で緩和ケアセンター運営カンファレンスを開催
- ・ 緩和ケア科外来初回全患者に専門・認定看護師が同席(365件)し、緩和ケア・緩和ケア病棟について補足説明を実施
- ・ 緩和ケアリンクナース育成を目的に緩和ケアリンクナース会を計8回実施

##### エ がん患者リハビリテーションの推進

- ・ 術後合併症予防のため、外来で術前呼吸訓練指導を行い、周術期リハビリテーションを充実
  - ※ 実施患者数 247件／年
- ・ 入院患者全員に、医師や看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、社会福祉士等の多職種によるカンファレンスを定期的実施



※ 開催回数 51回/年

- ・ 入院リハビリ実施患者全員に、リハビリテーション総合実施計画書を作成し交付

※ 作成件数 619件/年

## (2) 安全で安心な医療の提供

### ア 医療安全対策等の推進

- ・ インシデント影響度レベル0-1の割合の年間実績は、63.6%と目標値を2.4%下回った。前年度の実績54.1%からは、9.5%の大幅増
- ・ リスクマネージャー・医療安全管理委員の多職種で構成された7つの検証ワーキンググループにて、毎月、インシデントや事故報告の原因分析、事故防止の具体策の検討、運用の整備、医療事故防止のための啓発、広報等を実施
- ・ リスクマネージャー対象研修を2回開催
- ・ 全職員対象研修や職種ごとにテーマを設定した医療安全に関する研修を21回開催
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している定期的な感染対策研修は開催できなかったが、WEBでの全体研修を2回開催
- ・ 院内での新型コロナウイルス陽性者の感染拡大を防止するため、ゾーニングや接触対策、飛沫感染対策を実施
- ・ 医療における安全文化調査は、参加195施設中、総合順位39位。上司の医療安全に対する態度や行動、部署内でのチームワークの2項目は、参加施設中連続1位

### イ 医療機器、医薬品等の安全管理の徹底

- ・ 安全で安心な放射線治療を提供するため、医学物理士を中心に毎月最終水曜日を放射線治療品質管理日として治療機器の精度管理を実施
- ・ 医薬品の安全使用のための研修会を2回開催
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、医療機器の消耗品や部品の流通不良があったため、適宜院内周知や講習会を実施、また、人工呼吸器関連の使用頻度が高かったため講習会を開催

## (3) 患者・県民の視点に立った医療の提供

### ア 患者及びその家族への医療サービスの充実

- ・ 治療方針決定時に同席した看護師が、関わった患者を継続的に支援
  - ・ 各認定看護師が領域の活動を通して、患者・家族、職員に対する相談や指導のほか看護実践を実施
  - ・ 将来の治療・ケアについて、患者・家族と医療従事者が患者自らの意向に基づき予め話し合うために、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)支援チームを設置
  - ・ 薬剤師による事前の薬物治療の説明は、入院では病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務、外来ではがん患者指導管理、事前面談により実施
- ※ 薬剤管理指導件数 3,297件、がん患者指導管理料ハ算定件数 1,293件、連携充実加算件数 304件
- ・ 診療放射線技師による検査前説明については2020年度から資料を改訂し、外来初診患者を対象として再開

- ※ 2020年度2件、2021年度15件
- ・ 診療放射線技師の参画した放射線治療前説明を2018年度から継続して実施
- ※ 初年度実績8件、2020年度実績33件、2021年度実績23件
- ・ 入院薬物治療の種類が増加したことから新たな薬物治療パスを作成
- ※ 2021年度適用率 53.1%
- イ 患者の就労等に関する相談支援機能の充実
  - ・ ハローワーク宇都宮と連携して就職支援相談会を16回、栃木産業保健総合支援センターと連携して両立支援相談会を12回開催
- ウ 患者及びその家族の利便性・快適性の向上
  - ・ 接遇マニュアルを作成し、各部署へ周知徹底のため配付
  - ・ 患者満足度アンケート結果、評価項目「当院を全般的に評価したときの満足度」（「とても満足している」と「やや満足している」の合計）について、外来は83%、入院は95%
- エ 県民へのがんに関する情報の提供
  - ・ 新設した事業系センターや外来等の紹介を掲載した広報紙「がんセンターだより」を年4回発行し、宇都宮市内及び関係医療機関等に配布
  - ・ 「希少がん」をテーマにした市民公開講座を開催
  - ・ リモートによる喫煙防止教育を実施
    - ※ 小学校 8回、中学校 1回
- オ ボランティア等民間団体との協働
  - ・ 患者サロンなどを定期的で開催するため完全予約制やオンラインとし、患者への情報提供や交流の場の提供を維持

#### (4) 人材の確保と育成

- ア 医療従事者の確保と育成
  - ・ 肝胆膵外科学会高度技能修練施設(A)として専門医取得のため51例の高難度手術を実施(うち、修練医2名が計26例を術者として実施)し、2019~21年度に当センターに在籍した修練医が高度技能専門医を取得
  - ・ 病院見学会やインターンシップなど看護学生が病院を訪れる機会が激減しているため、WEB見学会の随時開催や企業企画による就職ガイダンスへの参加など病院をPRする機会を積極的に創出
    - ※ WEB見学会 14回開催(2022年度採用者のうち3名、2021年度中途採用者のうち2名参加)
  - ・ 新規採用の事務職員にメンターを指名して育成
  - ・ 事務職員の資質向上のため、地方独立行政法人職員向けの研修等の参加を支援
- イ 研修内容の充実
  - ・ 院外医療従事者研修会はWEBにより2回開催
  - ・ 院内職員が対象のグランドカンファレンスをハイブリッド形式で3回開催
  - ・ 新規採用職員及び中途採用者を対象とする基本研修を実施
- ウ 人事管理制度の構築

- ・ 人事評価制度を導入するために、試行評価を実施
- エ 働きやすい職場環境づくり
  - ・ 職員満足調査の結果、仕事のやりがいの項目で満足度(「満足している」と「まあまあ満足している」の合計)が 69.3%(前回 74%)に下落
  - ・ 院内保育園では、新型コロナウイルス感染症発生による保育園・幼稚園等の休園、小学校休校に対応するため臨時受入れを実施
  - ・ 優秀な研究者等の確保のため、職員が当センターと別の機関の双方に身分を有し、勤務割合に応じて双方で業務を行うクロスアポイントメント制度を新設
  - ・ 法人の働き方改革ワーキンググループ及び医師の働き方改革サブワーキンググループを立ち上げ検討を開始
- オ 医療従事者の臨床倫理観の向上
  - ・ 倫理担当者ががん専門看護師とともに、日本臨床倫理学会事例検討セッションのファシリテーターとして参加

#### (5) 地域連携の推進

- ア 地域の医療機関等との連携強化
  - ・ 郡市医師会出張講座は、WEBを活用して7回開催
  - ・ 当センターでがん治療を行っている患者の口腔管理依頼を目的に、かかりつけ歯科に逆紹介を行うなど、医科歯科連携を推進
    - ※ 逆紹介数 128 例
  - ・ 栃木県がん診療連携協議会地域連携・研修部会において、がん医療における医薬連携に関する研修会を保険薬局の薬剤師、病院薬剤師を対象に2回開催
  - ・ がん診療研修病院として、保険薬局薬剤師の研修を受諾
  - ・ CT、MRI、超音波検査等の受託検査の実施案内を県内の医療機関に周知
    - ※ 予約件数 159 件
- イ 患者の在宅療養を支援するための病診連携の強化
  - ・ 在宅緩和ケアを選択する患者・家族に面談やカンファレンスを実施
  - ・ 在宅療養中の患者については状況に応じて、在宅支援・調整を実施。緊急受診の受け入れも感染対策を考慮しながら迅速に対応
- ウ 在宅緩和ケアの推進
  - ・ 宇都宮医療圏緩和ケア地域連携カンファレンスを済生会宇都宮病院と共同でWEBにより8回開催
  - ・ 地域連携センターと連携を図りながら緩和ケア患者の受入れと看取りを含めた在宅緩和ケアを推進
  - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年2月から他施設からの外来患者の新規受入れを中止

#### (6) 地域医療への貢献

- ア 地域のがん医療の質の向上のための支援
  - ・ 栃木県がん診療連携協議会及び各部会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大

防止のため、昨年度に引き続きオンラインで計画どおり開催

- ・ P D C Aサイクル部会では、新型コロナウイルス感染症拡大によるがん治療への影響を考慮し、「がん検診・受診控え防止」を県内の統一目標として実態調査を行い、その調査結果を踏まえて啓発用のポスターやリーフレットを作成し、関係機関や県民に配布
  - ・ 栃木県がん・生殖医療ネットワーク会議を2回開催し、がん治療医と生殖医療医との連携を促進
  - ・ 関係医療機関へのリーフレットの配付、広報紙「がんセンターだより」への記事の掲載等により、がん・生殖医療の普及啓発を実施
  - ・ がん・生殖医療研修会は、研修用のDVDを加盟施設等へ配付し、各施設における院内研修の開催を促進
- ※ 医療従事者の受講者数 450名以上
- ・ がん・生殖医療専門心理士1名を養成し、県内各施設での小児・AYA世代等のがん患者への早期介入(支援)を目指した院内での支援体制構築のための取組を開始
  - ・ 県拠点病院として企画した院外医療従事者研修(連携施設)は、WEB形式で8回開催

#### イ がん対策事業への貢献

- ・ 全国がん登録実務者研修会のコンテンツを作成し、研修に協力
- ・ がん登録データを用いた新型コロナウイルス感染症の影響の解析では、検診対象となっているがん(胃、大腸、肺、乳房、前立腺、子宮頸部)の減少が顕著であることが判明
- ・ このデータを元にP D C Aサイクル部会を通じて、がん検診控え、受診控え防止の取組を実施

#### (7) 災害等への対応

- ・ 火災等発生時の患者の人命救助を確実にを行うため、病棟で火災が発生したことを想定して、消火から避難までの総合訓練及び病棟における消防訓練と、大地震を想定した防災訓練を実施
- ・ 災害時のための医薬品や患者用・職員用の非常食及び水を計画的に更新

## 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### (1) 業務運営体制の確立

#### ア 効率的な組織体制の構築

- ・ 2022年度の組織改編として、感染症対策を強化するため「感染症対策センター」を新設するとともに、戦略的な情報発信を行うため広報業務を経営企画室へ集約

#### イ 経営参画意識の向上

- ・ 経営会議及び経営戦略会議を開催し、毎月の収支状況(予算、実績、診療科ごとの患者数・収益、収支改善の状況等)、決定事項等を周知し、経営に関する情報の共有化と一体感を醸成
- ・ 「業務改善提案」の制度を活用し、職員からのアイデアを収集し、医療サービス

の向上や収益改善に資する取組を実施

※ 業務改善提案件数 2 件(うち 1 件採用)

- ・ 医療バランスト・スコアカードの手法を用いて「財務の視点」、「顧客の視点」、「業務プロセスの視点」及び「学習・成長の視点」から、各部署で策定した戦略テーマを可視化したうえで、具体的な目標を設定したアクションプランを実践

## (2) 収入の確保及び費用の削減への取組

### ア 収入の確保への取組

- ・ ホームページのトップに「バイオバンク」及び「新規治療のご案内」のページを新設
- ・ 栃木県総合文化センターで「希少がん」についての市民公開講座を開催  
※参集者 120 人
- ・ 広報紙「がんセンターだより」を年 4 回発行し、新設した「栃木がんセンターバイオバンク」や事業系センターの紹介などを掲載し、宇都宮市内及び関係医療機関等に配布
- ・ 当センターの診療情報等について、プレスリリースを 3 回実施
- ・ 「がんセンター出前講座」は、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施
- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応により、運用病床数が制限を受けているが、がん患者の医療需要に応じるため効率的な病床運営に尽力
- ・ 新規採用職員を順調に育成
- ・ 診療報酬改定にあっては、関係部署に情報提供を行い、改定への対応方針の発表の場を設け、病院全体での取組意識を醸成
- ・ がん情報相談課、中央受付との情報共有などの連携を深めて、未収金がある患者に、適宜、丁寧に説明を行い未収金の減に注力
- ・ 回収が困難と判断される債権について整理（5 人分 324,800 円）。

### イ 費用の削減への取組

- ・ 病院の収支状況を月次で管理するとともに、経営会議や経営戦略会議において収支状況等を職員に周知し、コスト意識を徹底
- ・ 医薬品について、ベンチマークシステムを活用することで価格交渉においては加重平均値引率の上昇に努めるとともに、交渉後の価格についても検証を実施
- ・ 診療材料については、新型コロナウイルス感染症の影響で海外製品の欠品、遅延が多かった中で、材料費の削減を目標に掲げ、より安価な製品への切り替えを実施し、最終的に前年度対比で年間 480 万円程のコスト削減
- ・ 委託料については、給食業務委託の内容を見直し、入札を行った結果、前回契約（契約期間 3 年間）より 5,540 万円のコスト削減
- ・ 働き方改革ワーキンググループ及び医師の働き方改革サブワーキンググループを組織し検討を開始
- ・ 医師の働き方改革サブワーキンググループでは、医局長から医局員に対して、医師の働き方改革に関する説明会を実施するとともに、院内の e ラーニングシステムに説明スライドを掲載し周知

- ・ 栃木労働局や医師会主催の説明会に積極的に参加
- ・ 超過勤務の過多の所属に対して、業務内容や人員配置の見直しを指導
- ・ 経営分析システムにより診療科別に収支の年度別推移をまとめ、診療科長ヒアリング時に提示し、適切なコスト管理を指示

### 3 予算、収支計画及び資金計画（財務内容の改善に関する事項）

- ・ 経常収支は1,870,270,830円を計上し、経常収支比率は118.9%
- ・ 経営会議及び経営戦略会議を開催し、毎月の収支状況等（予算、実績、診療科ごとの患者数・収益、収支改善の状況等）を周知
- ・ 診療科及び事業系センターごとに、幹部職員によるヒアリングを実施。なお、診療科のヒアリングでは、近年の入院患者や収益・費用の推移、経営分析システムによる収支の年度別推移などをもとに、課題と今後の方針、当センターの強みとなる高度で専門的な医療の具体例などについて意見交換

### 4 その他業務運営に関する重要事項

#### (1) 施設整備のあり方・医療機器整備の検討

- ・ 当センターの将来構想を県に提出し協議を進めた結果、当センターの今後担うべき診療機能及びそれにふさわしい施設のあり方について県における協議課題として取り上げられることとなった。
- ・ 医療機器については、「超音波画像診断装置」、「大腸ビデオスコープ」、検査機器の充実を図るため「液状処理細胞標本作成装置」、「蛍光観察生物顕微鏡」、薬剤師の業務軽減及び、安全担保のため「注射薬自動払出システム」などを企業債により計画的に更新・整備